



●Tackle Guide
竿は7:3~6:4調子で全長3メートル前後のマダイ専用竿か軟調子のグラスワームロッド。リールは3~4号の道糸が300メートル巻ける小型電動の組み合わせが標準仕様。仕掛けは1本バリでハリ合わせが標準だが、潮具合によって2本バリにしたりハリスの長さを12メートルまで伸ばしたり、また2段テーパー仕掛けを使う人も多い。



▲船長のアナウンスをよく聞いてタナを取ろう



▼一時はヒット連続の時間帯も

対照的な二人が好調
「順番的にはそろそろ私にやる番ね」と小峰さつきさんが言い終わるやいなやギョウギユンとさつきさんのタックルが暴れ始めた。大きく竿をおおって合わせ



▼天気は悪かったが数は好調だった

を入れてから巻き上げを開始。1.2キロのマダイを釣り上げる。10時近くになると小峰さんの旦那さんが3枚目をヒットさせたリール中左舷トモの方も同時ヒット。小峰さんは無事に3枚目を取り込んだものの左舷トモの方は痛恨のバラシ。
この方はその後2度目のアタリもバラした後に「ようやく3度目の正直ですよ」と1.4キロのマダイを釣り上げてホツと一息。
この時間帯はさつきさんが2枚目、旦那さんは4枚目、千田さんも4枚目とまさに怒涛の入れ食いタイムだった。
とくに好調だった小峰さんはタナに合わせたら置き竿にする静の釣り。一方の千田さんはタナに合わせてアタリがなければ静かに2メートルほどリフトしてタナまで誘い落とすのを繰り返す動の釣りで数をのばしていた。
共通していたのは2人とも2段テーパーの12メートルハリスを使っていた点だ。
しかし、当日は北風で大潮の下げの潮だったためアタリはトモ側の4名にだけ集中するという展開。
11時になって写真もある程度撮れたところで私も釣りに参加。とりあえずハリス長10メートルのノーマル仕掛けで開始してみる。
席は左舷ミヨシだったのでこの時点で潮尻。いわゆるコマセ係の席だ。そこで長い間ポロポロとコマセが出るようにカゴの放出口を調整してコマセは一気に振らずに置き竿にする。
すると3投目のことだった写真撮りで席を離れていると遠目に私の竿がイレギュラーな動きをしたのが見えた次の

●船宿information
三浦半島剣崎松輪港
大松丸
☎046-886-1244
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=マダイ乗合一人 9500円
▶備考=出船6時半(要確認)。別船はマルイカ、ヤリイカなどへ



瞬間、ギョウギユンと引き込まれた。
慌てて席に戻って竿を立てるとグツとフッキングした手応えが伝わってきた。久しぶりのコマセマダイとのヤリトリを楽しみながら取り込んだのは1.2キロのマダイだ。
直後に右舷ミヨシ2番の土岐さんが同級を釣り上げ、しばらくして小峰さんが5枚目、そして終了直前に千田さんが本日最大となる1.8キロのマダイを釣り上げたところで沖揚がりとなった。
釣果は800グラム、1.8キロのマダイが0~6枚。総数は16枚で中には腹付近が黒ずみ始めた個体もあったので、乗っ込みが近いことが伺えた。



▲コマセダイファン待望のシーズンはもうすぐ

よもや再取材!?
乗っ込みの時期はまだ先だが、大松丸の直近の釣果は800グラム、1.5キロ程度のマダイがトップで4~5枚ほど釣れており、近ごろはポイントに

よってクロダイも多く交じってくるようだ。
私が初めてコマセマダイをやったのもこの剣崎松輪港で、その当時は海底からのタナ取りだったが、警戒心の強いマダイは一斉にビシが落ちてくると散ってしまうので、今は海面からのタナ取りが主流となっている。
また、ハリスの長さも当時は6メートルが基準だったのだが、8メートルとなり10メートルとなり、今では2段テーパー仕掛けの12メートルハリスを使う人の割合が増えてきているようだ。
出船前にお客さんに取材のあいさつをして回っていると「あら? また会ったわね」と声をかけてくれたのは小峰さつきさん。
彼女は2年前に私が大松丸

●三浦半島剣崎松輪港発 ↓下浦久里浜沖 本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki
**乗っ込み間近のコマセダイ
今後は大型の出現に期待!**

知得! Tips and Tricks
2段テーパー仕掛け
ハリスの中間部分にスイベルを介して上部に太いハリス、下部に細いハリスを組み合わせた2段テーパー仕掛け。特徴としてスイベルの重さがあるので仕掛けが絡みづらく、早く付けエサをタナに届けられる。誘い落としの際のアクションがイメージしやすい。ハリスの交換が下部のみで済むので経済的。早潮の際にハリスがタナから吹き上がるのをスイベルの重さを替えることで防げる、などがある。ただ、ナチュラルさにおいては通常の仕掛けに分がある。それぞれのメリットを理解して使い分けたい。
▲テーパー式の市販仕掛けもある

この場合、指示タナよりハリスの長さの半分ほどビシを落とし込んだところでコマセを振ったら指示タナまで巻き上げて再度コマセを振る(コマセの振り方は潮具合、エサ取り、魚の活性などにより変わる)。
ちなみにハリスの長さにかかわらず、ビシは指示タナに合わせてるのが鉄則だ。
さて、朝一番のゴールデンタイムに「だれの竿がズドン

千田さんが食わせた。
千田さんは「マダイだといいのですけどねえ」と言いながらリールリングして1キロほどのきれいなマダイを釣り上げた。